

2022.11.07



トインビー 歴史の研究(目次)

本文
頁

| <u>篇</u> | <u>章</u> | <u>内 容</u> | <u>頁</u> |
|----------|---------------|-------------|----------|
| 解 説 | | | |
| <u>①</u> | 1 | 序 論 | 73 |
| | 1 | 歴史研究の単位 | 73 |
| | 2 | 文明の比較研究 | 87 |
| | 3 | 文明の比較可能性 | 118 |
| <u>②</u> | 2 | 文明の発生 | |
| | 1 | 問題と従来の解答の誤り | 127 |
| | 2 | 挑戦と応戦 | 138 |
| | <u>③</u> | 3 | 文明の成長 |
| 1 | | 発育停止文明 | 161 |
| 2 | | 文明の成長の性質 | 181 |
| 3 | | 成長の分析 | 198 |
| <u>④</u> | 4 | 成長による分化 | 211 |
| | 1 | 文明の衰退 | |
| | 1 | 問題の性質 | 215 |
| | 2 | 決定論的解答 | 218 |
| <u>⑤</u> | 3 | 環境を支配する力の喪失 | 225 |
| | 4 | 自己決定の能力の減退 | 233 |
| | 5 | 文明の解体 | 262 |
| | 1 | 解体の性質 | 262 |
| 2 | 社会体の分裂 | 270 | |
| 3 | 魂の分裂 | 312 | |
| 4 | 解体期の社会と個人との関係 | 328 | |
| 5 | 解体のリズム | 330 | |
| 6 | 解体による標準化 | 339 | |
| 6 | 世界国家 | 344 | |
| 1 | 目的か手段か | 344 | |
| 2 | 不死の幻影 | 347 | |
| 3 | だれのために | 353 | |

トインビー 歴史の研究(目次)

| 篇 | 章 | 内 容 | 頁 |
|----|--------------|------------------|----------------------|
| ⑥ | 7 | 世界教会 | 362 |
| | 1 | 癌としての教会 | 362 |
| | 2 | さなぎとしての教会 | 369 |
| | 3 | 高次の種の社会としての教会 | 376 |
| | 4 | 人間社会と「神の国」 | 384 |
| ⑦ | 8 | 英雄時代 | 390 |
| | 1 | 社会的堰堤 | 390 |
| | 2 | 圧力の増大 | 394 |
| | 3 | 大洪水とその結果 | 400 |
| | 4 | 空想と現実 | 403 |
| 9 | | 文明の空間的接触 | 409 |
| | 1 | 研究領域の拡大 | 409 |
| | 2 | 同時代文明の遭遇 | 412 |
| | 3 | 同時代文明遭遇の結果 | 456 |
| | ⑧ | 10 | 文明の時間的接触 ルネサンスの概念 |
| | | | 478 |
| 11 | | 歴史のおける法則と自由 | 480 |
| | 1 | 問題 | 480 |
| | 2 | 人間生活の「自然の法則」への服従 | 488 |
| | 3 | 神の法則 | 512 |
| | ⑨ | 12 | 西欧文明の前途 |
| 1 | | この探求の必要性 | 516 |
| 2 | | 技術・戦争・政府 | 519 |
| 3 | | 技術・階級闘争・雇用 | 532 |
| 13 | | | むすび |
| | | 本書執筆の動機 | 551 |
| | 編集注記 表 I ~ V | 557 | |

すべての文明の生死を占う論

2022.11.07
2022.08.22
2022.08.08
2021.10.04
2021.09.18
2021.06.28

トインビー 歴史の研究①

(1~126)

項目

内容

備考

トインビー史学
(7—

1. 1929年(満州問題) 厳粛な一言

1931年満州事変の2年前の秋に京都で開かれた第三回太平洋問題調査会国際会議で来国したトインビーは、日本は一つの歴史的な運命的岐路に立っていると言った。

「満州問題に対する日本の責任は大きい、それは日本の運命を決する」という厳粛な一言であった。その言葉は、日本にして一步誤まらんか、そこをみまうものはローマ帝国と戦ったカルタゴの運命であるという洞察があった。

歴史的、運命的な岐路に立っている日本の責任は大きく、日本の運命を決する。

日本は単に中国と戦うのではなく、アメリカやソ連のような、20世紀の産業的ローマ帝国と戦うことになるのであるという、世界文明の視野に立った歴史の教訓がその念頭に去来していたのである。

それ以後の歴史の進展は、トインビーの予言した方向に進む。

何でもなくて全く
見る、考える

2. 歴史の進展

彼の歴史の理解尺度は、日本も、英國も、アメリカも、ソ連も孤立的には存在していなかった。

彼の見ていたものは、西欧文明であり、東洋文明であり、そしてその接触交渉であり、その帰結であった。

その尺度は、ギリシア・ローマ文明、否すべての既存文明の生起興亡の理論であった。

再度の来日
(11—

学び取った教訓は、その民族だけでなく、同胞である全人類のために学び取られたのである。原子力時代においては、人類は自分たちを亡ぼすまいとすれば、一つの家族となって生活することを学び取らねばならない。これこそ、日本の学び取り、そして他に教え伝えることのできる真実である。

項 目

内 容

備
考

ヘロポネス戦争
と第一次世界大戦
(16-)

自分の生きている時代を、高みから眺めるのは意外に難しい。ある時代を俯瞰できるのは、その時代を終わった後の人の特権である。その特権は、歴史を読むことによって行使される。
渦中にいる人々は、得てして見通しがきかない。

(太平天国戦争の長沙攻防戦)

長沙の城壁の見物衆は、歴史を読む立場にある。
歴史を読む人には、その原因からいきさつまで手にとるようにわかる。隋の南北統一は、いきなりあらわれたのではなく、広く見渡せば、その前兆をいたるところに見出せる。そして統一を促したのは文明の持つ力である。

自分たちの不足しているものを、相手方のなかに認めるのが統一の前提である、それを認める文明の力が、そこまで達していかなければならない。

文化的に進んだ南を獲得した北(隋)は、大英断をもって官僚の任命を中央に改めた。

これにまさる大英断は、科挙の制度をはじめたことである。全国から600人近い貢子が送られ、彼らは特別の試験を受けた。このときから中国の受験地獄が始まった。隋の文帝によるこの制度は、実に時宜を得たものであった。全国の秀才を吸収すると同時に新領土の人心をなだめる懐柔策でもあった。(陳瞬臣)

柳条湖事件を契機とする満州事変の勃発、国際連盟からの脱退、日華事変への拡大、太平洋戦争への発展、そして、最後に原子爆弾とソ連の参戦によって、ポツダム宣言の受諾、終戦となり、占領下におかれることとなった。

そのときになってはじめて、16年前、われわれ日本人に対して、自らの過誤によって不幸な運命を招かないように、警告を与えてくれたトインビーのことが思い出され、忘れがたいものとなつた。

| 項 目 | 内 容 | 備 考 |
|-----|-----|-----|
|-----|-----|-----|

われわれ日本人としては、トインピーの警告にも
関わらず、列強の勢力均衡の番犬たる地位を忘
れ、無謀な大陸侵略政策をとった近視眼こそ、地
方的近視の典型となるものであった。(訳者)

原子力時代においては、人類は自分たちを滅ぼす
まいとすれば、一つの家族となって生活すること
を学びとらねばならない。

これこそ日本が学びとなり、そして他に伝えるこ
との真実であると、わたくしは信じる。(トインビ
ー)

項目

内容

2021.08.16

備
考

1932年夏、AINシュタインが最も大事だという問題、「人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか」について、心理学者フロイトと往復書簡が交わされた。

フロイトは、「人はなぜ戦争をするのか」、「戦争を確実に防止するためには、人類が一つの中央集権的な政府を設立することに合意する必要があります。

すべての利害の対立を調定する権利を、この中央政府に委ねなければなりません。

そのためには、①このように上位に立つ機構が設立されること、②その機構に必要とされる権力が譲渡されることです。」と言った。これはまるで中国の王朝である。

中国の近頃は、いかでありますか？

項 目

内 容

備
考

1933年には、満州国問題を巡り国際連盟から脱退、日本は孤立を深め、ナチスドイツとの同盟と真珠湾への道に追い込まれていく。

日英同盟を名目に第一次大戦に参戦、1915年の対華21カ条の要求、1917年のロシア革命に対するシベリア出兵…植民地帝国への道を進み、アジアの自主自尊に資する日本の選択を構想できず、欧米追従路線と進む中で、列強の番犬的な身分を、いつか忘れる行動をとったのが誤りであった。

| 項 目 | 内 容 | 備 考 |
|-----|-----|-----|
|-----|-----|-----|

それに対して、フロイトは「共同体を構成するには二つの条件が必要です。①暴力に対する強制と②成員の感情的な結びつきです。(心理学では同一化と呼ぶ)

ただし、片方が欠けていても、残りの条件では、共同体を維持することはできます。この片方と共同体の成員の一体感という理念を~~損失~~得ることが必要です。」と応じ、
持ち

「法とはもともとはむき出しの暴力だったことを忘れてはならない。^ア理念の力で現実の権力を抑えようという試みは今のところは失敗する運命にある。」

「人間がいかに戦争に熱狂するが、人間には憎悪や殺戮の欲動のようなものが働いているため戦争へと突き進んでいってしまうのではないか。」とも言っている。

「人間の欲動には二種類のものしかない。一つは、生を統一し、保存しようとする欲動(性的な欲動)、もう一つは、破壊し、殺害しようという欲動です。(攻撃欲動ともいう)

物理学の分野でいう、引力と反発力に類似したものの、この二つの欲動が協力し、対抗することで生命のさまざまな現象が誕生するのです。」と言っている。

死の欲動とエロスの欲動、心理学的な観点からの文化、文化の発展をもたらすものは戦争を防ぐように機能すると言っている。

項 目

内 容

備
考

第二次ポエニ戦争で敗れたカルタゴは、ローマと講和(BC202年)し、その後約50年間ローマの霸権の下で平和に生きてきた。

ところが、BC149年-146年の3年間に、二重にも三重にも重なり合って起きた不幸な偶然ともいいうべき出来事により地上より滅亡してしまった。カルタゴの戦の始めは、ローマに対してではなく、同じローマ支配下にあった隣国ヌミディア王国(現アルジェリア)との争いであった。

経済力に勝るカルタゴは傭兵によってヌミディア軍をヌミディア領内にまで撤退させることに成功した。その勢いを借りて、ヌミディア王国の首都まで90キロと迫った。これは、「ハンニバル戦争」終了後の講和にあるローマの承認なしにカルタゴは他国と交戦することはできないことあることの重大な違反であった。

ローマに派遣された特使は、事態の釈明に努めるが、ローマの裁断は「首都カルタゴは破壊され、住民全員は海岸から10ローマ・マイル(約15キロ)離れた内陸部に移住すること」であった。カルタゴの代表はこれを飲んで帰国せざるを得なかった。

ローマの要求を飲んで帰国した代表団は、裏切者の非難をあびて、怒り狂った民衆の手で殺された。

そして、カルタゴの民衆が、反ローマに立ち上がった。

こうしてローマとカルタゴは、最後の時を迎えた。

陥落後のカルタゴは、城壁も神殿も家も市場の建物もことごとく破壊された。

そして、石と土だけになった地表は、平らになられ、ローマ人が神々に呪われた地にするやり方で、一面に塩が撒かれた。草も生えず、人間が住めない不毛地帯と断罪された。

| 項 目 | 内 容 | 備 考 |
|-----|-----|-----|
|-----|-----|-----|

しかし、カルタゴを滅亡させたローマは、まもなく新たな問題を抱えこむことになる。ヌミディア(現アルジェリア)の強大化に歯止めをかける存在を抹殺してしまったことになったからである。

| 項 目 | 内 容 | 備 考 |
|-----|-----|-----|
|-----|-----|-----|

4. 現代の三諸悪(トインビー)

三つの関係の正常化(池田)

(1)貪欲 (自己の内面)

(2)戦争、社会的不公正(人間対人間)

(3)利己的人為的破壊(人間対自然)

5. 宗教の性格

(1)一神教(キリスト教、イスラム教)－文化の中斷、狂信性
人間がその欲望を満たすために、人間以外の宇宙を利用する権利があるとする。

(2)一汎神教(仏教)－文化の継続、共存

6. 西欧の伝統的宗教にとって変わったもの

第一 近代文明、科学的技術の進歩の信仰

(広島と長崎に投下された二個の原爆)

第二 ナショナリズム、地域社会における人間の集団力の信仰

キリスト教以前のギリシャ・ローマ世界における都市国家
(アメリカ独立戦争、フランス革命の狂信性)

第三 共産主義による社会的不公正の指弾

(不寛容性と排他性、キリスト教の派生的)

「唯一全能の神」→「歴史的必然」への置換

「選ばれた民」→「プロレタリアート」

「一千年王国」→「国家の消滅」

「全人類を改宗させる使命」→「伝道的宗教」「共産主義」

7. 古い宗教、信仰は、人間の欲望、自己の抑制

新しい宗教、信仰は、自己と欲望の解放

8. 仏教を求めて

- (1)後漢の明帝(64)が、身のたけ一丈六尺の像が宮中の庭に降りたった夢を見た。
- (2)明帝は群臣を集めて、問うたところそれは、西域の浮図だという者があり、郎中の蔡愔を西域に使に出すこととした。

中国ナショナリズムの中の日本

(江藤名保子氏著 勁草書房 を読んで)

2022.11.04
2022.10.18

1. 時期区分

| 区 分 | 国家目標 | 愛国主義の構成 |
|-------|-----------|-------------------|
| 毛沢東時代 | 社会主義国家の建設 | 中華民族、党国 |
| 鄧小平時代 | 経済発展 | 中華民族、党国、経済動員 |
| 江沢民時代 | 統治体制の維持 | 中華民族、党国(強化)、大国指向 |
| 胡錦濤時代 | 大国化 | 中華民族、党国、経済動員、大国指向 |
| 習近平時代 | 大国化 | 中華民族、党国、大国化 |

2. 「毛沢東」は、「愛国」の精神で祖国防衛のために戦い、抗日戦争に勝利することは、帝国主義の打破と民族解放に貢献すると主張した。
3. 「愛国主義」とは、
民族的独立・統一を目標とする民族ナショナリズムと社会主义イデオロギーを融合させた概念として登場した。
4. 大国化と民衆ナショナリズムの要請
 - (1) 1989年天安門事件後の求心力の模索
 - (2) 社会主義イデオロギー(経済発展からの党の指導へ)
 - (3) 愛国統一戦線の動搖—鄧小平路線と江沢民路線の併存
 - (4) 「大国論」と戦略的対日政策
歴史認識か、戦略的利益か

5. 中国の立場

- ① 中国の正当性とは、国家として、抗日戦線に勝利し、統一を果たした中華人民共和国による祖国統一
に対するの
- ② 中国の米英に対する根本的対応の誤り
1841年阿片戦争に起源し、この歴史的事実の上に、先進七ヶ国(日、米、英、独、仏、伊、加)が中国路線に対抗している
- ③ 日本は、対英米及び、中国に対する太平洋戦争敗戦の反省がない
米、英に属するのみが屈するのみで敗戦の反省は行われていない
し、
- ④ 日本の閣僚の靖国参拝は、敗戦の反省の欠如であり、中国に対する以前に、日本国民及び日本歴史の対する無責任
- ⑤ 中国五千年の歴史における中国も~~も~~の^の寛容と日本の忘恩

中国

100万年の 人類史

1万年の 文化史

5千年的 文明史

約5800年前 遼河流域 全長 1430 km

遼河 中国東北地区南部の大河。

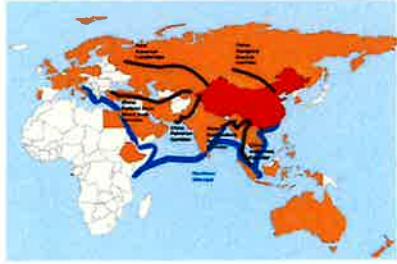
吉林省南西部江疏子 東遼河
内モンゴル大兴安嶺の東 西遼河

黄河 全長 5464km 長江 6380km

約4300年前 中原地域を中心とする一神化構造

図表9 中国指導者の世代交代

| 世代 | 期 間 | 主要指導者 | 主要政治 グループ | 出来事 |
|----------|--------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 第一 世代 | 1949~76年 | 毛沢東、周恩来 劉少奇、鄧小平 林彪 | ・改革実務派 (劉少奇、鄧小平) ・文革グループ | ・1966年から文化大革命 ・1976年毛沢東死去 |
| 第二 世代 | 1976 ~90年代初期 | 鄧小平、薄一波 葉劍英、楊尚昆 胡耀邦、趙紫陽 | ・長老グループ ・改革派(胡耀邦) | ・1989年天安門事件 |
| 第三 世代 | 1990年代初期 ~2002年 | 江沢民 朱鎔基、李鵬 | ・上海閥 ・長老グループ | |
| 第四 世代 | 2002~12年 | 胡錦濤 溫家宝、曾慶紅 | ・上海閥 ・共青団派 | ・2008年北京オリンピック ・2010年上海万博 |
| 第五 世代 | 2012年~ | 習近平 李克強ほか | ・共青団派 ・太子党 | |



シルクロードと一带一路 (21世紀のシルクロード)

2022.10.11
2022.09.20

9月③のごあいさつ
山内公認会計士事務所
2022年9月21日(木)

21世紀のシルクロードは、中国の新しい対外開放戦略の一環である。2013年中国国家主席“習近平”が、アジア、ヨーロッパ、アフリカ大陸にまたがる経済圏構想、「シルクロード経済ベルト」と「21世紀海上シルクロード」を併せた「一带一路」構想を打ち出したことにより始まった。

シルクロード「一带一路」を通じての開放型の世界経済システムによって、地域協力と文明の交流の実現を図り、中国及び世界の発展構想として提案し、実現へのスタートが切られた。

2017年5月、北京での「一带一路」国際協力サミットフォーラム(29カ国参加)が開催された。「一带一路」におけるインフラ整備を資金面から支援するためのシルクロード基金、アジアインフラ投資銀行(AIIB)、新開発銀行(NDB)が中国の主導で設立されている。

一带一路構想の対象地域は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ大陸にまたがる経済圏である。

「一带一路」シルクロード経済ベルトとは、中国から①中央アジア、ロシアを経て、ヨーロッパに至るもの、②西アジアを経て、ペルシア湾、地中海に至るもの、③インドシナ半島を経て、インド洋に至るものである。

「一路」21世紀海上シルクロードとは、中国の沿岸湾から①南シナ海を通り、マラッカ海峡、インド洋を経て、ヨーロッパに延伸するもの、②南シナ海を通り、南太平洋へ延伸するものである。

そしてその協力の枠組みは、「六廊、六路、多国、多港」の共同建設を通じて実現するとされる。

しかし、現実の中国は、国内的にも地域の格差を抱え、対外的にも先進国との利害の衝突、開発途上国への適切な経済協力の実現など克服すべきいくつの課題を抱えている。

このような状況の中で、結果として、中国の利益を図り乍ら、各国の利益を実現し、「開放型の世界経済システムを守る」、「自主的で、均衡のとれた接続可能な発展を実現する」という目的を達成できるか否かという大きな課題がある。

参考：一带一路(全球発展的中国邏輯) 馮兼著 (2015年 新華書店) 米中対立の先に待つもの 津上俊哉著 (2022年 日経BP)

一帯一路構想 (ONE BELT AND ONE ROAD)

2022.09.12
2022.08.08
(2022.08.01)

| No. | 説明 | 注 |
|-----|--|---|
| 1. | 習近平(1953~) 2012年11月共産党総書記 2013年3月国家主席及び国家中央軍事委員会主席 | (1) BC 221年秦始皇統一中国 (2) BC 126年漢武帝開丝绸之路 (3) 1266年成吉思汗建立蒙古國 (4) 2013年习近平倡仪一带一路 |
| 2. | 一帯一路構想(一帯一路インシアティブ) (1) 開放型の世界経済システム (2) 持続可能な中国の発展 (3) 地域協力の深化 (4) 文明の交流。相互参考の強化 (5) 世界の平和・安定を守るという中国の主張 (6) 國際的經濟ガバナンス・システムの発展 (7) 中国の責任感の表れ | 支持者称賛、可能提高全球GDP, 尤其是发展中国家更能受益。 反对者批评 有机会侵犯人权和影响环境。 另外，通过債務陷阱外交的新殖民主义和经济帝国主义。 |
| 3. | 構想段階(中国版マーシャルプラン) (1) 就任して間もなく、習近平国家主席は、2013年に一帯一路構想を打ち出す (2) 2013年9月カザフスタン大学演説「シルクロード経済ベルト建設構想」 (3) 2013年10月、インドネシア国会演説「21世紀海上シルクロード建設構想」 (4) 2017年5月、北京で「一帯一路」国際協力サミットフォーラム(29カ国参加) (5) シルクロード基金、アジアインフラ投資銀行、BRICS新開発銀行 | |

| No. | 説明 | 注 |
|-----|---|------------------------------------|
| 4. | 「一帯一路構想」の対象地域 | |
| (1) | アジア、ヨーロッパ、アフリカ大陸にまたがる経済圏構想 | 「一帶」 一是经中亚, 经黑海到达欧洲 |
| (2) | 「一帯」シルクロード経済ベルト ① 中国西北、東北から中央アジア、ロシアを経てヨーロッパに至るもの ② 中国西北から中央アジア、西アジアを経てペルシャ湾、地中海に至るもの ③ 中国西南からインドシナ半島を経て、インド洋に至るもの | 二是新疆经巴基斯坦，到印度洋，中亚与西亚通过波斯湾和地中海沿岸各国。 |
| (3) | 「一路」21世紀海上シルクロード ① 中国の沿海湾から南シナ海を通り、マラッカ海峡、インド洋を経て、ヨーロッパに延伸するもの ② 中国の沿海湾から南シナ海を通り、南太平洋へ延伸するもの | 「一路」 沿着海上丝绸之路。 |
| (4) | 協力の枠組み「六廊・六路・多国・多港」の共同建設 ① 六廊 新ユーラシア、モンゴル、中央アジア、インドシナ半島、パキスタン、インドの六大国際協力回廊 ② 六路 鉄道、道路、海軍、航空、ハイウェイ、情報網等の相互接続 ③ 多国 一群の選考協力諸国 ④ 多港 海上輸送主要ルートの安全性 | |
| 5. | 「目的」 | |
| (1) | 開放型の世界経済システムを守る | |
| (2) | 多様で、自主的で、均衡のとれた接続可能な発展の実現 | |

| No. | 説明 | 注 |
|-----|----|---|
|-----|----|---|

6. 「中国の多くの課題」

- (1) 東部(沿海地域偏重)と中西部の格差問題
- (2) 東部から中西部への生産能力の移転の加速
- (3) 東部沿海地域における対外開放の恩恵
- (4) 海外からの直接投資と先進国市場への依存
- (5) 中国の海外進出の重視
- (6) 開発途上国との経済協力
- (7) アジア地域の一体化の促進と交通路の開拓
- (8) アジア全体の発展、制度改革
- (9) 古代シルクロードで見られた平和、友好、包容、ワインワインの精神

7. 「5つの分野」におけるこれまでの成果

- (1) 政策面の意思疎通
 - ロシアの「ユーラシア経済同盟」
 - ASEAN の「相互接続基本計画」
 - トルコの「中間回廊」、モンゴルの「発展の道」など
- (2) インフラの連結
 - 高速鉄道
 - 港湾の接続
 - 陸海空ルート
 - 情報ハイウェイ
 - パイプライン網
 - 等複合型のインフラ網の形成
- (3) 貿易の円滑化
 - 貿易協力区の建設
 - 貿易総額の上昇
- (4) 資金の融通
 - シルクロード基金の投資額は 40 億ドルに達した

(5) 民心の意思疎通

インテリジェント・シルクロード

健康シルクロード

民間協力

8. 今後の課題

- (1) 中国の利益 にならないか
- (2) 各国との協力
- (3) 資源をめぐる問題
- (4) ロシア、インド等大国との確執
- (5) 領土、領海の問題
- (6) 政治情勢

中国共産党の歴史(的)決議など

- ## 1. 1945 (コミニテルン)ソ連留学組の追い落とし

- ## 2. 1978 党が文革で犯した過ちの総括

- ### 3. 2021.3 14次5計(新5ヶ年計画、国内大循環)

- #### 4. 2021.11 6 全中会(歴史(的)決議)

- ## 5. 2022 秋 中国共产党第 20 回党大会

- ## 6. 韻光養晦(十分な力を備えるまでは内に力を備える)

- ## 7. ソ連崩壊の時

中国がソ連を引継いで国際共産主義運動の総本山になるべきという一部の意見に対し、

鄧小平は言った！！

「決して頭目になろうとしてはいけない、我々にそんな力はない」

2022.7.4



どうが悩んだ。白糸期間は3日と短く（組合員は）我慢できると思う。さらに1週間、10日と延びたら大変にならなくなる」と話した。

軍事分野における対話や司法互助、気候変動問題での協議などを停止すると発表。米中関係の一層の悪化は必至だ。



領土と貿易をしており、中国
国防省は「演習は米国と台
湾の結託に対する厳正なる
威嚇だ」との談話を発表し
た。

りの台湾訪問を終えたペロシ氏は3日、声明で、中国の軍事圧力に直面する中で「台湾の自由を守る米議会の決意を示した」と成果を強調した。

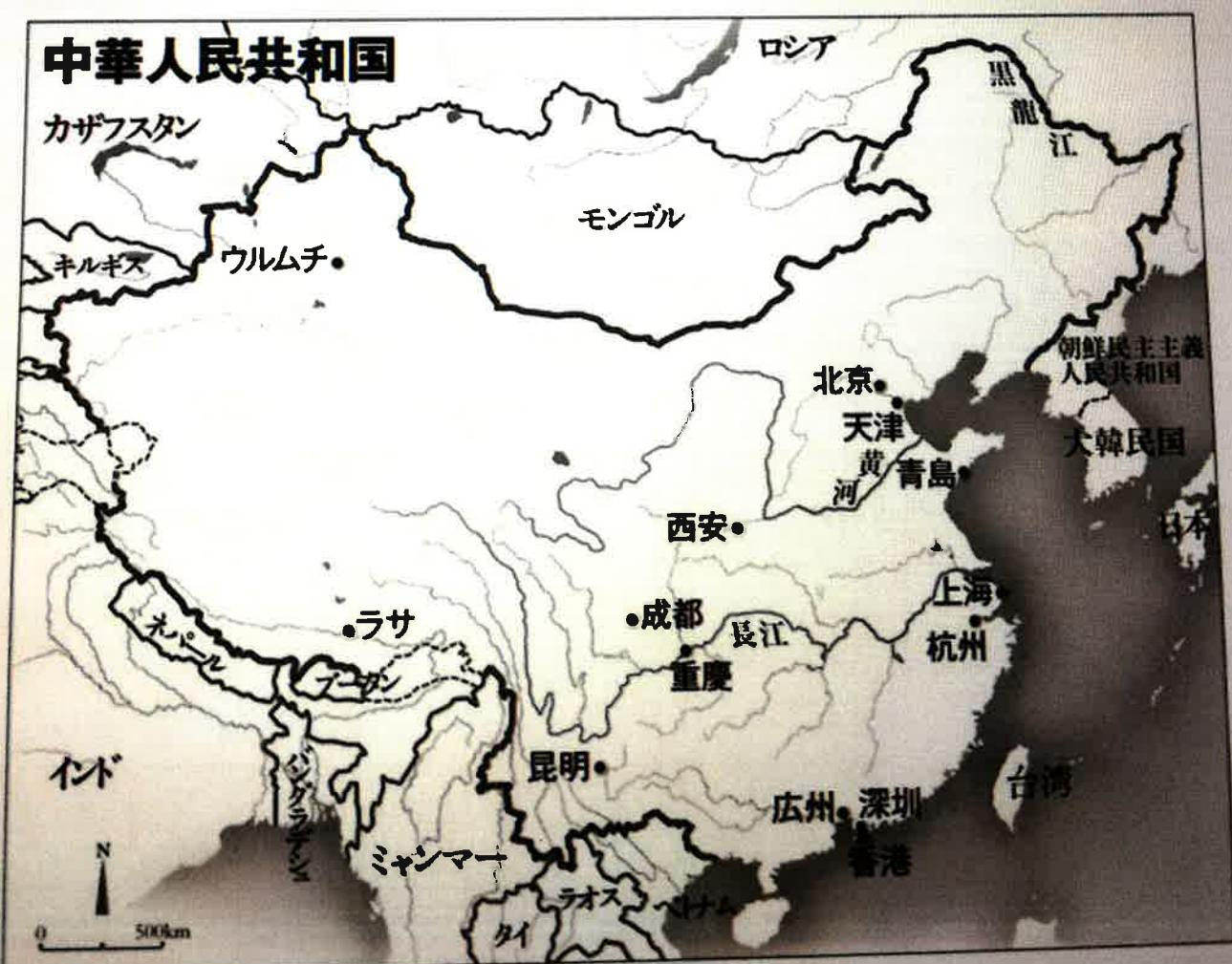
ロイター通信によると、米海軍の原子力空母ロナルド・レーガンを中心とする空母打撃群が4日、台湾東方のフィリピン海に展開している。

先進7カ国（G7）外相

唐の中国統一(7世紀前半)



中華人民共和国



大中華圏

2022.09.19

(吉島美加著、NHK出版 2012.12刊)

海の中国
陸の中国 } の経済の発展と図3

2022.09.12
2022.08.05

1. 1900年9月8日 夏目漱石は15歳で留學旅行を始める。

香港岸に上り妻・鏡子を手紙。

「上海も、香港もまだ見ておれないで、

とうてい横濱、神戸よりも遥かに優る。」

华人70-70% 中国の距離、毎年上海移入者増

2. 1842年 併州近く香港を割譲され以来、

列強は既に日本と中国を敵として見て

3. シンガポール近く日本人売春婦（カブキ女子）が

600人存在してゐる

4. 大中华圏は既に100枚10年前から現在まで

莫大な（？）中國人で香港を中心に

5. 日本人を越えて支那人といわれるが厭がるか如何、

支那人は日本人より遙かに名譽ある国民たり、

(日本人は日本人と呼ぶことをも、支那人といふことを
名譽とするべきなり)

併し此等のことはせず 日本は今既にそれ程の
支那の危険にござりぬ。....

6. 沿革から第2回 20年、(1991年ソ連崩壊)

社会主义国の中心、何故中国だけ
ソ連等が成長軌道を歩んでゐる。

→ 東欧諸国は、社会主义時代の不効率性と官僚制
克服の時間 0.03年 —

何故中国だけ

1997年の邓小平元様を棄絶

2008年のリバードの世界不景気時に

巨額の財政赤字成長を経て30年で復興

8. 中国はネットワーク型発展の中にある

華人圏の香港、台湾、シンガポールのネットワーク

政治の連携が大きいところ

9. 陸の中国 — 中华人民共和国

海の中国 — 香港、台湾、シンガポール

元老院 — 大中华圏

10 华桥・华人ネット

海外の至るところ华桥的

11. 中国の革命歴史とリーダー、习近平

2012. 11. 第18回 全国代表大会

习近平 1953年6月15日生

12 习近平の体験

(1) 农村下放 1

1969. 1 16歳 陝西省延川県下放 7年15

75 23歳 清華大学入學

76 先次車死去

党中央委員会秘書室

25年1月 地方行政毛祖省

民生、福祉重视

(2) 来園体験

1985 仔細州 ハホーチキン

2012 制縛地獄水、仔細州訪問

13. 中中協力

(1) 相互理解

(2) 核心的利益 (台湾、大陆) の尊重

(3) 相互利益の確立

(4) 國際化 地域化 擬似の協力

近年実現化

14. 世界最大の二二九政權の中国

15. 三つの判断

統合の意識、危機

(1) 台湾海峡問題

台湾の変化 (馬英九)

經濟的外極化 (胡成志)

特区概念を翻弄



不透明 (stealth)

軍事、内海

(2) 緯海部と内陸部の問題、格差

(3) 新疆シカレ、チベットの分断

(シカレ人) (チベト人)

16. シンガポール

米英の北朝鮮

17 中国 我の将来

(1) 共産党一党支配

(2) 民主化と私の中国

18 仁義礼節

國家毛澤東毛岸英江澤胡錦濤胡頌平

19. 会员参加型秩序

相互依存

20. ネットワーク型成長

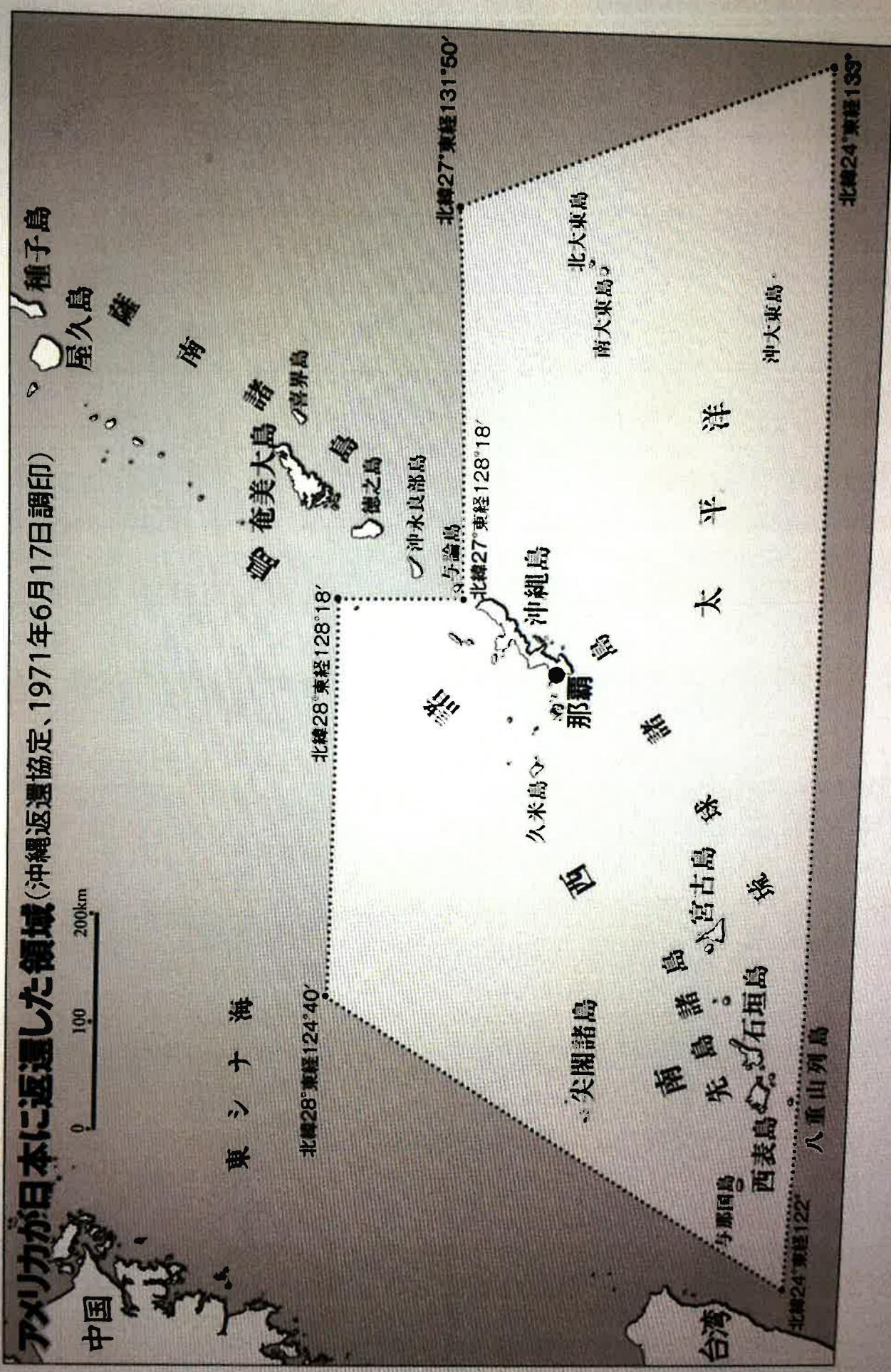
21. フランチャイズ化粧品

香港華僑資本と戦略的提携

→ 大中华圏を一体として攻める戦略

→ のマーケティングマーケティング.

22. 大中华圏を立場軸にとらえ



①

日本経済の現状

2022.10.24

景気の先行

景気の先行

1. FRBの金利引き上げ
米国のインフレ抑制



ドル高、通貨先
新米国貿易・日本
円下落、経済減速
新米国インフレ
トルコ 29上. プロセス29=21%
12月15上. 2人01=10.2% 7.3201/10.1

2. FRBは米国の景気後退
よりも、インフレ過熱を優先



新米国・金利、通貨先
プロセス13.25% トルコ15.00%
X年3月8.5% 9.10% (15.8%上昇)

3. ドル円相場(2023 総合物、工農平均格安勝)

1. 8月 外国人控除の
失効による(2兆円)
7月第3週～8月第3週

日経平均 27,000円 → 29,000円

2. 8月米国
外個人控除の支給
(25万円)

29,222円 → 27,700円

3. コロナ前 110円 → 現在 148円
円高の進行

4. ドル円相場の終盤と
2024の終盤

2022.10.24

2022.10.17

→ 経済の悪循環

日本経済の成長低下

→ 国家

企業収益の悪化

景気を冷やす

長年の貯蓄緩和

悪循環

(経済の弱さが、国家を招き、
これが、企業収益と景気を冷やす。

異次元の国家と日本再生の道

1949.4.25

1971.8.15

1985.9.22

2011

2022.10

1ドル=360円

1ドル=308円

1ドル=260円

1ドル=75円

1ドル=130円

単一為替レート

=742/310円
円高、ドル安

円安や合意

4. 信託報酬 (GDPRe)

日本 2.6倍

欧米各国 1.0倍前後

5. 日本銀行の量的・質的緩和

(1) 長期限預定期

2022年6月末 528兆円

(2) 日銀ETF保有額 369兆円

" 指数市場比率 5.5%

6. PMI 3ヶ月の10年

過去10年で日本

過去と株高並み、高値・努力・苦労が並んで!!

4-9月 市場の構造、株式活性化が止まらない

吹き飛ぶ NFT など新しい期待

過去と、8割引されてきた企業、技術、地

7. 12、23、24、25の忙しい日